

心、豊かに

◆ 特別な「感覚」

激しい戦闘が続くシリアを逃れた多くの難民が欧州に押し寄せ、欧州以外の国も受け入れを表明しました。オーストラリアやアメリカは、1万人を超えるシリア難民の受け入れを発表。日本はこの時点で、約970億円の「財政支援」をアピールしましたが、受け入れには「慎重な姿勢」を示しています。

日本は、以前から難民の受け入れ（認定）には神経を尖らせていました。複雑な手続きにより認定までに多くの時間をかけ、さらに認定の権限を法務省官吏のみに限定。ところが、緊急性や融通性に乏しいこの対応は「人道的な配慮に欠ける」として、国際社会の非難を浴びてしまいます。非難を受けた法務省は2005年に入管難民法を改正し、審査制度の改善をはかるなど前向きな姿勢を見せるようになりました。

近年、日本への難民認定の申請が急増しています。急増の背景には、出稼ぎ目的で来日する「偽装難民」の存在が取り沙汰されていますが、それでも日本における難民の認定数は諸外国と比べ著しく低くなっています。今回の日本のシリア難民への対応について、欧米メディアは「危機克服のために国際社会と協力するとしながら、受け入れの準備もしていない」と批判。一方で、フランスのバルス首相は財政支援を高く評価。そのうえで、「日本は遠い」という地理的な条件を考慮し、受け入れ体制にも一定の理解を示しています。また、国内では「難民」と豊かさを求めて日本に来る「移民」の違いに対する理解不足や治安悪化の懸念から、受け入れ慎重論を後押しする意見も見受けられます。

「金銭的な支援か、それとも人道的な支援か」一。国内事情や国民感情などの影響を多分に受ける問題かもしれませんが、日本（日本人）には、外国人の受け入れに「特別な感覚」があるのではないのでしょうか。ただ、その感覚が国際社会からはみださなければよいのですが…。